

To Which We Belong

君の根は。

大地再生にいどむ人びと

土が蘇る、人類の希望が蘇る
話題のリジェネラティブ・ムービー
ついに日本上陸

原題:「To Which We Belong」(2021年、アメリカ、89分、カラー)

監督:パメラ・タナー・ボル、リンゼー・リチャードソン／編集:ナンシー・C.ケネディ

プロデューサー:ボーラ・カーカ／撮影:ジェリー・ライシアス／音声:マイケル・ジョーンズ

制作:Mystic Artists Film Productions／配給:Passion River Films

日本語字幕:辻 信一／日本語版制作:メノビレッジ長沼ナマケモノ俱楽部

Mystic Artists



アメリカで、メキシコで、アフリカで…、「リジェネラティブ（大地再生）」という世界観と出会い、農業・漁業・牧畜を、そして生き方そのものを転換した人びとに迫るドキュメンタリー映画の日本語版ができました。お近くの上映会にぜひご参加ください。

▶ハッシュタグ「#君の根は。」 <https://www.yukkurido.com/towwhichwebelong>



映画公式 HP はこちら

未来を探している人、必見です。

大地再生にこそ、今突き当たっている地球の温暖化、気候変動への解決策があると。そのためには農業を変えなくてはならない！強烈なメッセージです。

加藤登紀子（歌手）

食べること、装うこと、生活のあらゆる行いのルーツには大地がある。

手足を動かして実践していくたくなるエネルギーを受け取りました！

鎌田安里紗（エシカルファッショングランナー）

人間がこの無限の生き物たちの万物の営みの中でどこでどういう面白い役割が出せるか。

この映画を足場にやりたいことがいっぱい見えてきた！

アーサー・ビナード（詩人・アクティビスト）

畜産の在り方こそが大地再生に役立つ。

危機にある時代の転換を自然との共生によって創造する人たちの姿に、未来への希望が見えてくる。

山本伸司（パレスシステム生協連合会顧問）

リジェネラティブな農業を通して取り戻す生命とエレメンツの調和が、いかに人間社会を精神的・肉体的・経済的に健やかにしてくれるか。

**子どもからおばあちゃんまで
色んな仲間と何度も観たいです。**

NOMA（モデル／エコロジスト）

これは単に農民の運動ではない。

地方に住む人も、都会に住む人も、山に住む人も海辺に住む人も、誰もがみな、人間観、自然観、世界観の転換を迫られている。あなた自身が当事者なのだ。

辻信一（環境アクティビスト、文化人類学者）



自然を助ければ、自然が私たちを助ける。

アレハンドロ・カリージョ（メキシコ、ラス・ダマス牧場）



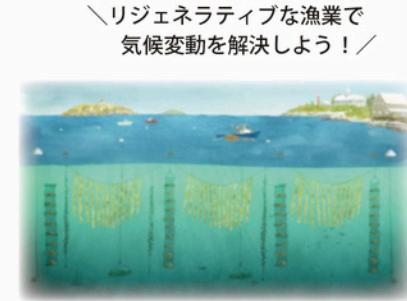
農民たちをサポートして土の再生を促すことは、社会の再生にもつながります。

ケース・バーンズ（アメリカ、グリーン・カバー・シード社）



自然に寄り添い、土壤を回復し、生態系のサイクルにバランスを取り戻す。解決策は私たちの足元にあるのです。

ジュディス・シュワルツ（『牛は地球を救う』著者）



富山市SDGsウィーク2026 「SDGsシネマ上映会」 2026年2月1日（日）12:40~14:10

【場所】ほとり座シネマホール 【入場料】無料 【定員】92名（右QR事前申込にて先着順）

【主催】一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま） tel 076-405-9340

【協力】富山県有機農業研究会、富山市えがおプロジェクト

【備考】上映後のトークイベント14:30~16:00は要別途申込（先着30名）

